

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学 I-1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	松峰 理真	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	・ 個体の生命を維持するために必要な、人体の構造と機能の基本知識を習得する。
授業の一般目標 (G10)	個体の生命を維持するための器官の構造と働きを理解する。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編 (医歯薬出版株式会社)
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	・ 教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。 ・ 図を模写することで理解が深まるので積極的にスケッチを行ってください。

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
1期	1	循環器系【総論】	循環器系の役割について説明できる。血管の構造とそれぞれの特徴について説明できる。	講義
	2	循環器系【心臓】	心臓の構造（心臓の位置、心膜、心臓の壁）について説明できる。	講義
	3	循環器系【心臓】	心臓の構造（刺激伝導系、心臓の血）について説明できる。	講義
	4	循環器系【心臓】	心臓の機能（心周期、心音、神経支配）について説明できる。	講義
	5	循環器系【脈管】	大動脈の走行とその直接の枝について説明できる。	講義
	6	循環器系【脈管】	大静脈の走行とその直接の根について説明できる。特に、動脈との違いを説明できる。	講義
	7	循環器系【脈管】	毛細血管における物質の移動、血圧に影響を与える因子について説明できる。	講義
	8	循環器系【脈管】	循環調節の仕組みについて説明できる。	講義
	9	呼吸器系【総論】	呼吸器系の構成と役割について説明できる。	講義
	10	呼吸器系【構造】	呼吸器の構造について説明できる。呼吸運動とその調節について説明できる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバックを受けて、循環器と呼吸器の概要を説明できる。	講義
2期	13	呼吸器系【機能】	肺胞換気量とガス交換、ガス運搬について説明できる。	講義
	14	呼吸器系【機能】	呼吸運動とその調節について説明できる。	講義
	15	消化器系【総論】	消化器系の構成と役割について説明できる。	講義
	16	消化器系【口腔・咽頭】	口腔・咽頭の構造について説明できる。咀嚼・嚥下・唾液について説明できる。	講義
	17	消化器系【食道・胃】	食道・胃の構造について説明できる。胃運動、胃液とその分泌調節について説明できる。	講義
	18	消化器系【小腸・膵臓】	小腸と膵臓の構造について説明できる。膵液、腸液とその分泌調節について説明できる。	講義
	19	消化器系【胆嚢】	胆嚢の構造について説明できる。胆汁とその分泌調節、消化酵素の全体像、小腸での吸収	講義
	20	消化器系【大腸】	大腸の構造について説明できる。大腸の役割と排便反射について説明できる。	講義
	21	消化器系【肝臓】	肝臓の構造について説明できる。肝臓の役割について説明できる。	講義
	22	消化器系【腹膜・調節】	腹膜の構造について説明できる。摂食調節について説明できる。	講義
	23	試験	2期試験	試験
	24	試験解説	試験内容のフィードバックを受けて、消化器系と泌尿器系の概要を説明できる。	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅱ－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	山村 聡	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	身体を構成する運動器の基礎的な構造と機能を習得すると共に、運動に関わる神経との関連を理解できるようにする。
授業の一般目標 (G10)	身体を構成する運動器の、筋・脈管・神経および基礎的な運動の関連を理解できるようにする。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】構造機能学Ⅱ－1 2021年度 I 部鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
	1	骨格系【全身の骨格】	全身の骨格の概要について説明できる。	講義

1期	2	骨格系【骨の構造】	骨の基本構造について説明できる。	講義
	3	骨格系【骨の連携・関節】	骨の連携と、関節の種類について説明できる。	講義
	4	骨格系【脊柱の構成・椎骨】	脊柱を構成する骨の名称を挙げることができる。	講義
	5	骨格系【椎骨】	椎骨の名称と特徴を説明できる。	講義
	6	骨格系【胸郭】	胸骨・肋骨について説明できる。	講義
	7	骨格系【上肢の骨】	上肢帯の骨について図示して特徴を挙げるこ	講義
	8	骨格系【上肢の骨】	自由上肢の骨について、特徴を挙げることがで	講義
	9	骨格系【下肢の骨】	下肢帯の骨について、特徴を挙げることがで	講義
	10	骨格系【下肢の骨】	自由下肢の骨について特徴を挙げることがで	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	試験内容のフィードバックを受けて、1期の概要を説明できる。	講義
2期	13	筋系【筋 背筋】	背筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	14	筋系【筋 胸筋】	胸筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	15	筋系【筋 腹筋】	腹筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	16	筋系【筋 上肢帯の筋】	上肢帯の筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	17	筋系【筋 上腕の筋】	上腕の筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	18	筋系【筋 前腕の筋】	前腕の筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	19	筋系【筋 手の筋】	手の筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について	講義
	20	筋系【筋 下肢帯の筋】	下肢帯の筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	21	筋系【筋 大腿の筋】	大腿の筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	22	筋系【筋 下腿の筋】	下腿の筋の種類を挙げ、それぞれの起始・停止について説明することができる。	講義
	23	試験	2期試験	試験
24	試験解説	試験内容のフィードバックを受けて、2期の概要を説明できる。	講義	
3期	25	運動器系【体幹 局所解剖】	体幹の局所的な構造を挙げ、その特徴について説明することができる。	講義
	26	運動器系【体幹 神経・血管】	体幹の主な動・静脈、神経を挙げることができる。	講義
	27	運動器系【体幹 運動】	体幹の主な運動について説明できる。	講義
	28	運動器系【上肢 局所解剖】	上肢の局所的な構造を挙げ、その特徴について説明する	講義
	29	運動器系【上肢 神経・血管】	上肢の主な動・静脈、神経を挙げることができる。	講義
	30	運動器系【上肢 運動】	上肢の主な運動について説明できる。	講義
	31	運動器系【下肢 局所解剖】	下肢の局所的な構造を挙げ、その特徴について説明することができる。	講義
	32	運動器系【下肢 神経・血管】	下肢の主な動・静脈、神経を挙げることができる。	講義
	33	運動器系【下肢 運動】	下肢の主な運動について説明できる。	講義
	34	運動器系【まとめ】	運動器の構造と働きについて説明できる。	講義
	35	試験	3期試験	試験
36	試験解説	試験内容のフィードバックを受けて、3期の概要を説明できる。	講義	

【分野】 専門基礎分野 人体の構造と機能

【科目】 構造機能学Ⅲ－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	宮原 一浩	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・長年の治療の経験を活かし、基礎の学習から臨床に結びつけることができる。 ・生命の連続性と恒常性の維持に関与する構造と機能について理解する。
授業の一般目標 (G10)	生命の根源をなす細胞の構造と働きについて理解し、生殖と発生、成長と老化、恒常性の維持に関与する器官の構造と機能を理解する。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学 東洋療法学校協会編（医歯薬出版株式会社）
参考書	ぜんぶわかる人体解剖図
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	解剖学、生理学の教科書を同時に使用するので、教科書、参考書を基にどのページに書いてあるか予習、復習を行うこと
履修にあたっての留意点	自分の体のどの部分の話か、イメージできるように図を書くことができるようにするとよい。毎回小テストをするので、必ず見直しておくこと。

【授業計画】 構造機能学Ⅲ－1 2021年度 I 部鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	人体の構成－細胞	細胞小器官を图示できる。また、その特徴と働きを表にまとめられる。	講義
	2	人体の構成－細胞膜	細胞膜の構造と、物質の移動を説明できる。	講義
	3	生殖と発生－核とDNA	核の構造を图示できる。DNAのセントラルドグマを説明できる。	講義
	4	生殖と発生－細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂を图示して、説明できる。	講義
	5	生殖と発生－男性生殖器	男性生殖器の名称を挙げることができる。男性ホルモンの分泌と働きを挙げることができる。	講義
	6	生殖と発生－女性生殖器	女性生殖器の名称を挙げることができる。女性の性周期を説明できる。	講義
	7	生殖と発生－受精と発生	受精の仕組みを説明できる。ヒトの胚発生を説明できる。	講義
	8	生殖と発生－胎児循環	胎児循環の意味と名称を説明できる。	講義
	9	血液－血液の組成	血液の組成を挙げることができる。血球の特徴と働きを説明できる。	講義
	10	血液－血液凝固	血液凝固と線溶系の仕組みを説明できる。血液型と輸血等の注意を説明できる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	試験結果をフィードバックすることで理解を深める。	講義
2期	13	神経系【総論】 総論・ニューロンの構造	神経系の概要を説明できる。ニューロンを图示することができる。	講義
	14	神経系【機能】 興奮の伝導	静止電位と活動電位を説明できる。伝導の原則を挙げることができる。	講義
	15	神経系【機能】 興奮の伝達	伝達の仕組みを説明できる。主な神経伝達物質、受容体を挙げることができる。	講義
	16	神経系【機能】 脊髄	ベルマジャンディーの法則・反射弓を説明できる。	講義
	17	神経系【機能】 伝導路	伝導路の概要を説明できる。	講義
	18	神経系【中枢】 脳幹	脳幹の構造と働きを挙げることができる。	講義
	19	神経系【中枢】 小脳・間脳	小脳、間脳の構造と働きを挙げることができる。	講義
	20	神経系【中枢】 大脳	大脳の構造と機能局在を挙げることができる。	講義
	21	神経系【末梢】 脳神経	脳神経の働きを表にまとめることができる。	講義
	22	神経系【末梢】 脊髄神経・自律神経	デルマトームの説明ができる。自律神経の特徴を挙げることができる。	講義
	23	試験	2期試験	試験
	24	試験解説	試験結果をフィードバックすることで理解を深める。	講義
3期	25	神経系【末梢】 自律神経	交感神経と副交感神経の具体的な働きを挙げることができる。	講義
	26	神経系【末梢】 自律神経	神経伝達物質と受容体を説明できる。自律神経の関与する反射を挙げて説明できる。	講義
	27	神経系【機能】 脳波・脳脊髄液	脳波の種類を挙げて説明できる。脳を守る構造と脳脊髄液の流れを説明できる。	講義
	28	内分泌系【概要】	ホルモンの定義を挙げることができる。ホルモンの分類（脂溶性、水溶性含めて）ができる。	講義
	29	内分泌系【機能】 下視床下部・垂体	下視床下部、下垂体からのホルモンとその働きを表にまとめられる。	講義
	30	内分泌系【機能】 甲状腺・膵臓	甲状腺、膵臓からのホルモンとその働きを表にまとめることができる。	講義
	31	内分泌系【機能】 副腎	副腎髄質、副腎皮質からのホルモンの特徴と働きを表にまとめることができる。	講義
	32	内分泌系【機能】 卵巣・精巣	男性ホルモン、女性ホルモンの特徴と働きを挙げることができる。	講義
	33	体温	体温調節について説明できる。	講義
	34	体温	産熱と放熱に関わる用語を説明できる。発汗、セットポイントについて説明できる。	講義
	35	試験	3期試験	試験
	36	試験解説	試験結果をフィードバックすることで理解を深める。	講義

【分野】 専門基礎分野 疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進

【科目】 診療の基本－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	松峰 理真	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の鑑別に必要な検査を行うにあたり、その基礎となる筋・神経及び反射について、理解するための講義を行う。 ・徒手検査の機序を理解する。 ・バイタルサインについて理解する。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトの運動と反射の仕組みを理解する。 ・筋と運動を理解することで、臨床における検査の意義を考える。 ・診療に必要なバイタルサインを理解する。

【担当教員から】

教科書	生理学・臨床医学総論 東洋療法学校協会編
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	医療面接、身体計測、バイタルサインは実行しながら復習することが望ましい。

【授業計画】 診療の基本－1 2021年度 I 部鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	筋（骨格筋の構造と働き）	骨格筋の構造を説明できる。	講義
	26	筋（筋収縮の仕組み）	興奮収縮連関を説明できる。等張性運動と等尺性運動、単収縮と強縮について説明できる。ローマン反応について説明できる。心筋・平滑筋・骨格筋の比較ができる。	講義
	27	筋（筋のエネルギー供給の仕組み・筋の種類）	α運動ニューロン、γ運動ニューロン、Ia群求心性神経、Ib群求心性神経を比較できる。	講義
	28	運動（骨格筋の支配神経）	伸張反射、拮抗抑制、自原抑制、屈曲反射、交叉性伸張反射の機序を説明できる。	講義
	29	運動（脊髄レベルの調節）	脳幹、小脳、大脳基底核、大脳に調節がある反射を挙げることができる。	講義
	30	運動（脳による調節）	錐体路と錐体外路の違いを説明できる。発生と言語の仕組みを説明できる。	講義
	31	運動（錐体路系と錐体外路・発声と言語）	錐体路と錐体外路の違いを説明できる。発生と言語の仕組みを説明できる。	講義
	32	バイタルサイン（脈拍・血圧）	脈拍と血圧の異常について説明できる。	講義
	33	バイタルサイン（体温・呼吸）	体温・呼吸の異常を説明できる。	講義
	34	腱反射（測定）	上腕二頭筋反射・腕橈骨筋反射・上腕三頭筋反射・膝蓋腱反射・アキレス腱反射測定がで	講義
	35	試験	3期試験	試験
	36	試験解説	試験結果をフィードバックすることで理解を深める。	講義

【科目】 保健医療福祉学

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	高橋 恵	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	はき師に必要な倫理と心構えを養い、現代のはき師を取り巻く環境と将来像について概観し、専門職上の責任を全うできる鍼灸師を育成する。また、公衆衛生の基本となる考え方を学ぶ。
授業の一般目標 (G10)	わが国の社会保障制度と予防医学の重要性を理解し、自身の行動を律するための基準や規範を示す職業倫理を身につけることにより、はき施術を通して社会貢献できるようにする。

【担当教員から】

教科書	衛生学・公衆衛生学、臨床医学各論（東洋療法学校協会編）
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

【授業計画】 保健医療福祉学 2021年度 鍼灸専科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
----	----	------	-------------	------

1期	1	年間計画及び導入、関係法規、職業倫理	はき師としての適切な範囲の業務を説明できる。	講義
	2	衛生・公衆衛生学の意義	衛生・公衆衛生学の意義を説明できる。包括保健、地域保健について説明できる。	講義
	3	健康の概要	健康とはどういう状態を言うのか、説明できる。	講義
	4	健康管理	健康管理（集団検診）の条件を挙げることができる。	講義
	5	衛生行政、医療制度と医療保険	保健所と市町村の役割を挙げ、区別することができる。医療保険の特徴を説明できる。	講義
	6	食品と栄養	栄養素や食生活の面から食生指針を説明することができる。	講義
	7	食品と疾病	栄養素の不足・過剰による疾患を挙げることができる。	講義
	8	食品加工と添加物、食中毒	食品添加物の安全性について説明できる。経口感染症と寄生虫症を類別できる。	講義
	9	運動と健康	健康作りの対策（飲酒・喫煙）などを挙げることができる。	講義
	10	運動と健康	運動の意義を説明し、健康の維持増進について例を挙げることができる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	形成的評価によるフィードバックを受け、理解不十分の項目について正しく理解できる。	講義
2期	13	環境と健康	環境に影響する化学・生物・物理的要因を挙げることができる。	講義
	14	日常生活環境	温熱、騒音、振動、電離・非電離放射線による健康被害について説明できる。	講義
	15	日常生活環境	化学性発癌物質（ダイオキシン、PCB）、病原微生物による健康被害について説明できる。	講義
	16	公害	公害の主なエピソードと原因について説明できる。	講義
	17	地球規模の環境問題	有害物質の体内蓄積と生物濃縮について、また環境ホルモンについて説明できる。	講義
	18	環境問題に対する対応	オゾン層破壊、地球温暖化酸性雨、砂漠化などについて、原因と対策を説明できる。	講義
	19	産業保健、産業保険の意義	産業衛生の意義を説明できる。産業衛生の三管理を挙げることができる。	講義
	20	労働災害とその対策	職業病を挙げ、すべき対策を挙げることができる。	講義
	21	精神保健の意義	適応障害、ストレス、アルコール・薬物依存症等について説明、対策を挙げることができる。	講義
	22	精神保健の現状と分類	精神障害者に対する医療制度を挙げ、説明できる。	講義
	23	試験	2期試験	試験
	24	試験解説	形成的評価によるフィードバックを受け、理解不十分の項目について正しく理解できる。	講義
3期	25	母子保健の意義、母胎乳幼児の健康	母子保健水準の指標を挙げ、説明できる。	講義
	26	母胎乳幼児の健康つづき、成人・高齢者保健の意義	乳幼児保健対策、少子化対策（リプロダクティブヘルス含む）、加齢と老化対策について説	講義
	27	生活習慣病対策	生活習慣病の特徴を説明し、対策を挙げることができる。	講義
	28	感染症の意義と種類	感染症法、感染症の種類、指定感染症、新興・再興感染症を類別できる。	講義
	29	感染症発生要因	免疫、垂直感染、輸入感染症について説明できる。	講義
	30	感染症予防の原則	感染症発生要因（感染源・感染経路・宿主の感受性）について説明できる。	講義
	31	感染症予防の免疫	免疫とその種類、予防接種を挙げることができる。	講義
	32	消毒法一般	消毒と滅菌の違いを説明できる。	講義
	33	消毒の種類	物理的・化学的消毒法の種類・作用・使用方法を挙げ、説明できる。	講義
	34	消毒の実際	日常的・衛生的消毒法の違いが説明できる。医療廃棄物の処理について説明できる。	講義
	35	試験	3期試験	試験
	36	試験解説	形成的評価によるフィードバックを受け、理解不十分の項目について正しく理解できる。	講義

【分野】 専門分野

【科目】 東洋医学概論－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	佐々木 治子	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎の学習から臨床に結びつけることができる。 ・鍼灸を学ぶ上で、骨組みとなる東洋医学の意義を理解して、正しい東洋医学用語が使用でき、東洋医学の生理・病理の特徴やシステムについて理解する。 ・東洋哲学や思想などを基礎とし、東洋医学における人体の構造と機能の基礎を理解する。また疾病の原因やその症状を考察し臨床に使用できる能力も身につける。 ・2 年次に行う臨床科目と結びつくように陰陽五行学説から蔵象学、病因病機を主体に展開していく。
授業の一般目標 (G10)	<p>東洋医学における哲学的理解をする。 基礎概念である陰陽五行、気血津液などを理解する。 蔵象と病因病機の機序を理解し簡潔に説明することができる。</p>

【担当教員から】

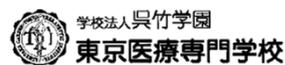
教科書	新版 東洋医学概論 (教科書検討小委員会)
参考書	漢字辞典
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>1 学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>(1) A : 100～90点 (2) B : 89～70点 (3) C : 69～60点 (4) D : 60点未満</p> <p>成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	複雑な漢字や現代医学と異なる理論が展開されるので、柔軟な考え方で受け入れることが必要である。スマホ・タブレットは指示に従って使用すること。

【授業計画】 東洋医学概論－1 2021年度 I部鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態	
1期	1	東洋医学の沿革	古代中国で発達・完成した医学と現代医学との相違を歴史の変遷を交えながら認識することができる。	講義	
	2	治療論と治療法の概略	治未病の概念の理解と古代九鍼の概略を理解し説明することができる。	講義	
	3	日本と世界の東洋医学	日本の伝統医学と中国の中医学の違い。免許制度の違いなどを理解し説明することができる。	講義	
	4	人体の見方 天人合一思想～五行学説	東洋医学の人体の捉え方。思想を理解し説明することができる。	講義	
	5	陰陽学説 1	陰陽論の基礎を理解し説明することができる。	講義	
	6	陰陽学説 2	人体における陰陽論を理解し説明することができる。	講義	
	7	五行学説 分類と相生と相克	相生・相克と相乗・相侮を理解し簡単に説明することができる。	講義	
	8	五行分類 1	色体表の分類を暗記する。五行配当の関係を理解し説明することができる。	講義	
	9	五行分類 2		講義	
	10	五行分類 3		講義	
		11	試験	1期試験	試験
		12	試験解説	解答解説を聞くことにより内容を再確認することができる。	講義
2期	13	精(先天の精・後天の精)と神	精と神を理解し、その生理を理解することができる。	講義	
	14	真気の作用および特定の気の作用	気の作用を理解し説明することができる。	講義	
	15	血・津液の作用	血の作用、津液の作用をそれぞれ理解し説明することができる。	講義	
	16	蔵象の総論	蔵象の考え方を理解し説明することができる。	講義	
	17	蔵象の生理 (肝～心)	各臓腑の字義を確認する。各臓腑の象徴的役割、生理的機能、他の器官との関連を理解し説明することができる。	講義	
	18	蔵象の生理 (脾)		講義	
	19	蔵象の生理 (肺)		講義	
	20	蔵象の生理 (腎)		講義	
	21	蔵象の生理 (六腑)		講義	
	22	蔵象の生理 (奇恒の腑)・蔵象のまとめ	臓象学全体の理解し説明することができる。	講義	
		23	試験	2期試験	試験
		24	試験解説	解説をおこないフィードバックにより試験内容を説明することができる。	講義
3期	25	病因 1 (病因の分類/外感病・外因)	病因の分類を説明することができる。外感病を理解し各病因の侵入経路、代表的証候、疾病季節・五臓との関係を説明することができる。内傷病・病理産物その他の病因を理解し種々の病因が作用したときの生体変化、惹き起こされる病証と五臓の関係を理解し、説明することができる。	講義	
	26	病因 2 (内傷病・内因と不内外因)		講義	
	27	病因 3 (病理産物・その他外傷等)		講義	
	28	病証とは何か/八綱病証 総論	病証の概論を理解し説明することができる。	講義	
	29	八綱病証	統括としての陰陽・病位(表裏)・病情(寒熱)・病勢(虚実)の概念・定義と臨床症状の主なものを理解し説明することができる。	講義	
	30	気血津液弁証 1 (気の病証)	気・血・津液それぞれの循行異常の原因と症状、臓腑・経絡との関連を理解し説明することができる。	講義	
	31	気血津液弁証 2 (血の病証)		講義	
	32	気血津液弁証 3 (津液の病証)		講義	
	33	代表的な疾病 (熱病・風病・痛・厥)		熱病・風病・痛・厥の意味を理解し説明することができる。	講義

34	代表的な疾病（痺・痿・欬嗽・瘡・積聚・疝・その他）	痺・痿・欬嗽（咳嗽）・瘡・積聚・疝・その他の意味を理解し説明することができる。	講義
35	試験	3期試験	試験
36	試験解説	解説をおこないフィードバックにより試験内容を説明することができる。	講義

2021年度 I 部鍼灸科



【分野】 専門分野

【科目】 経絡経穴概論－1

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	船渡 真美	
単位数	3 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期・3 学期	授業形態・回数	講義	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 治療院経営の経験を活かし基礎の学習から臨床に結びつけることができる。 経絡経穴の歴史的背景から概要、経穴の取り方に必要な用語の理解をした上で、十四経脈上の経穴の順番と部位を理解し重要経穴を取穴する。
授業の一般目標 (G10)	経絡経穴の成り立ちから、要穴の意義や意味を理解近いし、十四経脈上にある経穴の場所と順番を理解し、説明できる。

【担当教員から】

教科書	新版経絡経穴概論（教科書検討小委員会）
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用 学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと
履修にあたっての留意点	

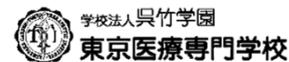
【授業計画】 経絡経穴概論－1 2021年度 I 部鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
1期	1	経絡の誕生～臓腑の概要	経絡の意義と臓腑との関係を説明ができる。	講義
	2	経穴の概要（流注と骨度法）	経脈の流注と、骨度法を説明ができる。	講義
	3	経穴の概要（要穴の概略）	要穴の種類と意味を説明ができる。	講義
	4	経穴の取り方に必要な用語、督脈の順番と流注	体表指標示すことができる。 督脈の流注と順番を書くことができる。	講義
	5	督脈 経穴と基準となる経穴と部位	督脈の経穴を示すことができる。	講義
	6	任脈の順番と流注、経穴と基準となる経穴と部位	任脈の流注と順番を書くことができる。 督脈・任脈の経穴を示すことができる。	講義
	7	任脈～手の太陰肺経の順番、流注、部位	肺経の流注と順番を書くことができる。 任脈・肺経の経穴を示すことができる。	講義
	8	手の陽明大腸経の順番、流注、部位	大腸経の流注と順番を書くことができる。 大腸経の経穴を示すことができる。	講義
	9	手の陽明大腸経～足の陽明胃経の順番、流注、部位	胃経の流注と順番を書くことができる。 大腸経・胃経の経穴を示すことができる。	講義
	10	足の陽明胃経の順番、流注、部位	胃経の経穴を示すことができる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	形成的評価によるフィードバックを受け、理解が足りない部分を再学習する。	講義
2期	13	足の太陰脾経の順番、流注、部位	脾経の流注と順番を書くことができる。 脾経の経穴を示すことができる。	講義
	14	足の太陰脾経の部位、取り方	脾経の経穴を示すことができる。	講義
	15	手の少陰心経の順番、流注、部位	心経の流注と順番を書くことができる。 心経の経穴を示すことができる。	講義
	16	手の太陽小腸経の順番、流注、部位	小腸経の流注と順番を書くことができる。 小腸経の経穴を示すことができる。	講義
	17	足の太陽膀胱経の順番、流注、部位	膀胱経の流注と順番を書くことができる。 膀胱経の経穴を示すことができる。	講義
	18	足の太陽膀胱経の流注、部位	膀胱経の経穴を示すことができる。	講義
	19	足の少陰腎経の順番、流注、部位	腎経の流注と順番を書くことができる。 腎経の経穴を示すことができる。	講義
	20	足の少陰腎経の流注、部位	腎経の経穴を示すことができる。	講義
	21	手の厥陰心包経、手の少陽三焦経の順番、流注、部位	心包経・三焦経の流注と順番を書くことができる。 心包経・三焦経の経穴を示すことができる。	講義
	22	手の少陽三焦経の部位	三焦経の経穴を示すことができる。	講義
	23	試験	2期試験	試験
	24	試験解説	形成的評価によるフィードバックを受け、理解が足りない部分を再学習する。	講義
3期	25	足の少陽胆経の順番、流注、部位	胆経の流注と順番を書くことができる。 胆経の経穴を示すことができる。	講義
	26	足の少陽胆経の部位、	胆経の経穴を示すことができる。	講義
	27	足の厥陰肝経の順番、流注、部位	肝経の流注と順番を書くことができる。 肝経の経穴を示すことができる。	講義
	28	奇経八脈	奇経八脈について説明ができる。	講義
	29	奇経八脈、奇穴の主治と取り方	奇経八脈および奇穴について説明ができる。 奇穴の主治を説明ができる。	講義
	30	奇穴の主治と取り方	奇穴の主治を説明ができる。	講義
	31	奇穴の主治と取り方	奇穴の主治を説明ができる。	講義
	32	経穴の組合せ	経穴の組合せと主治を説明ができる。	講義
	33	経絡経穴の現代的研究	現代的研究の説明ができる。	講義

34	まとめ	十四経脈上の経穴を書き示すことができる。	講義
35	試験	3期試験	試験
36	試験解説	形成的評価によるフィードバックを受け、理解が足りない部分を再学習する。	講義

2021年度 I部鍼灸科

【分野】 専門分野 基礎はり学、基礎きゅう学



学校法人 呉竹学園
東京医療専門学校

【科目】 はりきゅう理論

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	3 学期	授業形態・回数	講義	12回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 鍼灸施術を行うのに必要な道具の知識、刺鍼・施灸の技術的知識を習得する。 治療家に必要なリスク管理を理解する。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> 各施術法に必要な基礎用語と用具名称を理解する。 技術の名称と意義を理解する。 施術上の一般的注意から、医療過誤、副作用、感染症対策、禁忌などのリスク管理の必要性を理解する。

【担当教員から】

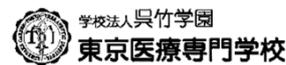
教科書	はりきゅう理論 東洋療法学校協会編
参考書	配布プリント等
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	実技で配布されたプリントと照らし合わせて復習すること。

【授業計画】 はりきゅう理論 2021年度 I 部鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
1期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
2期	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
3期	25	概論・鍼の基礎知識	現代使用されている用具と名称を挙げることができる。古代九鍼を説明できる。	講義
	26	刺鍼の方式と術式	刺鍼の方式、術式、手技について説明できる。	講義
	27	特殊鍼法	特殊鍼法の具体名を挙げ説明できる。	講義
	28	灸の基礎知識	艾、線香の特徴を説明できる。	講義
	29	灸術の種類・鍼灸の臨床応用	灸術の種類を説明できる。鍼灸の刺激量と感受性について説明できる。	講義
	30	鍼灸の臨床応用・鍼灸施術の治療的作用	鍼灸療法の適応、禁忌を挙げることができる。鍼灸の治療的作用を挙げ、説明できる。	講義
	31	リスク管理	鍼灸療法の過誤と副作用を具体的に挙げ、説明できる。	講義
	32	リスク管理	感染症対策を挙げることができる。	講義
	33	関連学説	サイバネティクスの学説、ホメオスタシス、ストレス学説を説明できる。	講義

34	関連学説	レイリー現象、圧発汗反射について説明できる。	講義
35	試験	3期試験	試験
36	試験解説	試験結果をフィードバックすることで理解を深める。	講義

2021年度 I 部 鍼灸科



【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技 I

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	林 信治	
単位数	2 単位		実務経験	長年の実務経験あり
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・長年の治療の経験を活かし、基礎の学習から臨床に結びつけることができる。治療院経営の経験を活かし基礎の学習から臨床に結びつけることができる。 ・はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、鍼施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。 ・実技として、前期までは鍼実技を中心に鍼道具の取り扱いや消毒法なども含めた鍼の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行う。 ・後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、鍼施術を中心として、基本的な鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。また、正しく取穴ができるように体表解剖を重視しながら、取穴実技を行う。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。 ・鍼の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。 ・後期には身体各部位に於いて、鍼施術を中心として、安全に鍼灸施術が行える事を目標とすると共に、正しく取穴ができるように主要な経穴の取穴実技を行う。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう実技〈基礎編〉 第2版
参考書	
成績評価基準	<p>授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用</p>
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと。

履修にあたっての留意点 教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。

【授業計画】 はりきゅう基礎実技Ⅰ 2021年度 I部 鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	1. 鍼灸実技用具の名称、説明 1) 施術上の注意、消毒法、道具の管理など	【知識として】 ・ 鍼道具の名称・管理について説明できる ・ 施術上の注意事項について説明できる ・ 偶発症と対策について説明できる ・ 消毒法の違いを説明できる 【実技として】(練習台において) ・ 片手挿管がスムーズにできる ・ 正しい基本刺鍼動作ができる ・ 指定の角度・深度に刺鍼できる ・ 各種の刺鍼法ができる	実技
	2	2. 鍼の基本実技の説明、練習 (1) 刺鍼法の概説、(2) 偶発症と対策		実技
	3	(3) 基本刺鍼練習 ① 片手挿管の反復練習		実技
	4	② 刺鍼練習台にて刺鍼基本動作の反復練習 ・ 送り込み法、旋撚刺法、撚鍼法		実技
	5	・ 直刺、斜刺、横刺		実技
	6	・ 各手技(17法)の説明と練習		実技
	7	(4) 人体刺鍼(自己下腿刺鍼) ・ 自己下腿刺鍼の練習	・ 適切な衛生操作・手指・患部消毒ができる ・ 自己下腿胃経・脾経の経穴の各部位に正しく施鍼できる ・ 自己下肢へ正しく施鍼できる (大腿部、他の経絡を含む)	実技
	8	① 下肢陽経の刺鍼(胃経を中心に)		実技
	9	② 下肢陰経の刺鍼(脾経を中心に) ③ 下肢への刺鍼(その他の経絡、大腿部)		実技
	10	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ① 下肢 a. 背臥位 陽経	・ 対人下肢の主要な経穴を示せる ・ 対人下肢の適切な施鍼ができる	実技
	11	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ① 下肢 b. 背臥位 陰経		実技
	12	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ① 下肢 c. 腹臥位 陽経・陰経		実技
	13	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ① 下肢 d. 背臥位: 足部		実技
	14	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ① 下肢 全体復習		実技
	15	前期復習(夏季休暇後の為)		実技
	16	鍼実技試験1(施鍼基本動作確認)	スムーズな片手挿管、適切な刺鍼動作(練習台)ができる	試験
	17	鍼実技試験2(人体施鍼)	正しい衛生操作ができる 適切な人体刺鍼ができる	試験
	18	試験講評	講評を受けた後、理解不十分な部分を、正しく理解し施術できる。	実技
後期	19	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ② 上肢 a. 陽経 1	・ 対人上肢の主要な経穴を示せる ・ 対人上肢の適切な施鍼ができる	実技
	20	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ② 上肢 a. 陽経 2		実技
	21	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ② 上肢 b. 陰経 1		実技
	22	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ② 上肢 b. 陰経 2		実技
	23	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③ 頸肩背部 1	・ 対人頸肩背部の主要な経穴を示せる ・ 対人頸肩背部の適切な施鍼ができる	実技
	24	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③ 頸肩背部 2		実技
	25	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③ 頸肩背部 3		実技
	26	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ④ 腰殿部	・ 対人腰殿部の主要な経穴を示せる ・ 対人腰殿部の適切な施鍼ができる	実技
	27	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ③ 頸肩背部~④ 腰殿部の復習	・ 対人 背面の取穴・施鍼ができる	実技
	28	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑤ 肩関節周囲部 1	・ 対人肩関節周囲部の主要な経穴を示せる ・ 対人肩関節周囲部の適切な施鍼ができる	実技
	29	(5) 人体刺鍼(対人刺鍼) ⑤ 肩関節周囲部 2		実技
	30	鍼実技試験(対人施鍼)	適切な対人施鍼ができる	試験
	31	試験講評	講評を受けた後、理解不十分な部分を、正しく理解し施術できる。	実技

32	(5)人体刺鍼(対人刺鍼) ⑥腹部 1	・対人腹部の主要な経穴を示せる ・対人腹部の適切な施鍼ができる	実技
33	(5)人体刺鍼(対人刺鍼) ⑥腹部 2		実技
34	(5)人体刺鍼(対人刺鍼) ⑦胸部	・対人胸部の主要な経穴を示せる ・対人胸部の適切な施鍼ができる	実技
35	(6)人体刺鍼(対人刺鍼) ⑧頭部	・対人頭部の主要な経穴を示せる ・対人頭部の適切な施鍼ができる	実技
36	(7)人体刺鍼(対人刺鍼) ⑨顔面部	・対人顔面部の主要な経穴を示せる ・対人顔面部の適切な施鍼ができる	実技

2021年度 I 部鍼灸科



学校法人 呉竹学園

東京医療専門学校

【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技Ⅱ

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	二村 隆一	
単位数	2 単位		実務経験	長年の実務経験あり
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	実技	36回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・長年の治療の経験を活かし、基礎の学習から臨床に結びつけることができる。 ・はり師・きゅう師が医療人である事を自覚することで、衛生観念などをはじめ身なりや言葉遣いなどを意識させるとともに、灸施術時の注意事項や過誤・副作用などとその対処法などを学習する。 ・実技として、前期までは灸実技を中心に灸道具の取り扱いや消毒法なども含めた灸の基本実技・動作を理解、実践できるような学習を行い、後期からは身体部位の代表的な経穴に対して、基本的な灸施術を中心とした鍼灸施術動作を行えることを目的に行う。
授業の一般目標 (G10)	医療人として相応しい衛生観念、言動ができるとともに過誤や副作用を理解する。灸の基本実技を理解し、正確に実践できることを目標とする。後期には身体各部位に於いて灸施術を中心として、安全に鍼灸施術が行える事を目標とする。

【担当教員から】

教科書	はりきゅう実技〈基礎編〉 第2版
参考書	
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の修得 知識の習熟度と修得した知識の応用
成績評価方法	<p>学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。</p> <p>2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A : 100~90点 (2) B : 89~70点 (3) C : 69~60点 (4) D : 60点未満 成績評価の基準と算定方法</p>

授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に予習・復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	教科書に載っている用語の理解のために予習をしておくことを勧めます。

【授業計画】 はりきゅう基礎実技Ⅱ 2019年度 I部鍼灸マッサージ科				
学期	回数	講義内容	行動目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	灸実技の概要説明 1. 灸の基礎知識 1) 艾について など 2) 灸術の種類について	灸の基礎知識を説明できる	実技
	2	2. 灸の基礎実技 (1) 基本施灸練習 ①艾ひねり	灸のひねり動作ができる 米粒大・半米粒大	実技
	3	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり		実技
	4	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり	徐々にスムーズにできるように	実技
	5	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火	灸のひねり動作ができる 米粒大・半米粒大・糸状灸	実技
	6	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火		実技
	7	(1) 基本施灸練習 ①艾ひねり、②竹上点火	竹上にて適切な施灸動作ができる 徐々にスムーズになるように	実技
	8	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)	竹上にて適切な施灸動作ができる 徐々にスムーズになるように	実技
	9	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)		実技
	10	(1) 基本施灸練習 ②竹上点火 (2) 人体施灸 (自己下腿)	自己下腿に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	11	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (陽経)		実技
	12	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (陰経)	対人において	実技
	13	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢 (後面)	下肢の各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	14	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、②下肢全体復習		実技
	15	前期試験前の確認・復習 (夏季休暇後)	前期に学習した事ができる	実技
	16	前期 灸実技試験 1	スムーズな艾ひねり、施灸基本動作ができる	試験
	17	前期 灸実技試験 2	適切な対人施灸ができる	試験
	18	試験講評	講評を受けた後、理解不十分な部分を、正しく理解し施術できる。	実技
後期	19	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢 (陽経)		実技
	20	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢 (陰経)	対人に於いて	実技
	21	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習	上肢の各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	22	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、③上肢全体復習		実技
	23	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 1		実技
	24	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、④肩背部 2	対人に於いて	実技
	25	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑤腰背部	腱背腰部の各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	26	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑥肩背腰部復習		実技
	27	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 1	対人に於いて	実技
	28	(3) 人体施灸 (対人施灸) ①失眠穴、⑦肩関節周囲部 2	肩関節周囲部の各部に適切な施灸動作ができる (衛生操作・消毒法などを含む)	実技
	29	後期試験前の確認・全体復習	後期に学習した事ができる	実技
	30	後期 灸実技試験 1	失眠穴にスムーズな2点連続施灸ができる	試験

31	後期 灸実技試験 2	体幹・上下肢で2点連続施灸ができる	試験
32	試験講評	講評を受けた後、理解不十分な部分を、正しく理解し施術できる。	実技
33	(3)人体施灸(対人施灸)①失眠穴、⑧腹部1	対人に於いて 腹部・胸部・頭部の各部に適切な施灸動作 ができる(衛生操作・消毒法などを含む)	実技
34	(3)人体施灸(対人施灸)①失眠穴、⑧腹部2		実技
35	(3)人体施灸(対人施灸)①失眠穴、⑨胸部		実技
36	(3)人体施灸(対人施灸)①失眠穴、⑩頭部		実技

2021年度 I 部 鍼灸科



【分野】 専門分野 はりきゅう実技

【科目】 はりきゅう基礎実技Ⅲ(生体観察を含む)

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	平野 智子	
単位数	2 単位		実務経験	長年の実務経験あり
開講学期	前期・後期	授業形態・回数	講義・実習	36回

【授業情報】

授業概要	鍼灸医療は体表面からアプローチすることから、体表観察が正確に行えることは大きな意味をもつ。そこで、身体診察や取穴に必要な体表解剖を理解、触知できることとともに、主要な経穴を正確に取穴できる能力を養う。また、リスク管理の意識を持ち、バイタルサインを理解し、血圧・脈拍の測定を継続的に行い習慣化する。
授業の一般目標 (G10)	身体診察や取穴に必要なランドマークとなる骨や主要な筋・動脈等を理解し、触知できることで、正確な診察や取穴のできる能力を養うとともに、さらに手足要穴の解剖学的な理解を深め、正確に取穴できる能力を養う。 また、バイタルサインを理解し、特に血圧と脈拍を正確に測れる能力を養う。
授業の到達目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・身体各部のランドマークとなる部位(骨)を理解し、触知できる。 ・身体各部の主要な筋を理解し、触知できる。 ・身体各部の主要な動脈を理解し、触知できる。 ・手足要穴について理解し、正確に取穴する事ができる。 ・バイタルサインを理解し、特に血圧・脈拍について正しく測定できる。

【担当教員から】

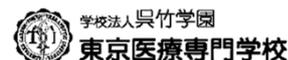
教科書	新版 経絡経穴概論〈第2版〉
参考書	
成績評価基準	<p>評価の観点は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業中における態度、実技習得度 2) 期末試験 <p>期末試験により習得度を確認するとともに、普段の授業に於いて医療人としての言動、態度、衛生管理なども加味し評価する。</p>
成績評価方法	<p>学期末試験</p> <p>授業中の態度、習得度</p>
授業時間外必要な学修	

覆修にあたっての留意点	必要に応じ実技を行うに当たり支障が生じないように、短パンなどを準備しておく
オフィスアワー	

【授業計画】				
学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	1. 取穴授業と体表解剖についての概要説明 2. 体表解剖総論 1) 人体の区分、名称など	人体の区分、名称、方向、位置について説明できる	実技
	2	2. 体表解剖総論 1) 人体の区分、名称など 2) 人体の方向と位置、重心など	人体の区分、名称、方向、位置について説明できる	実技
	3	3. 各部の体表解剖 1) 体幹のランドマーク 1	脊柱、頭蓋骨 ランドマークを触知、名称を記載できる	実技
	4	3. 各部の体表解剖 1) 体幹のランドマーク 2	胸骨、鎖骨、肩甲骨 ランドマークを触知、名称を記載できる	実技
	5	3. 各部の体表解剖 2) 上肢のランドマーク 1	上腕骨、橈骨、尺骨、肩・肘関節 ランドマークを触知、名称を記載できる	実技
	6	3. 各部の体表解剖 2) 上肢のランドマーク 2	手部、手関節 ランドマークを触知、名称を記載できる	実技
	7	3. 各部の体表解剖 3) 寛骨のランドマーク	恥骨、腸骨、坐骨 ランドマークを触知、名称を記載できる	実技
	8	3. 各部の体表解剖 4) 下肢のランドマーク 1	大腿骨、脛骨、腓骨、膝蓋骨、股・膝関節 ランドマークを触知、名称を記載できる	実技
	9	3. 各部の体表解剖 4) 下肢のランドマーク 2	足部 ランドマークを触知、名称を記載できる	実技
	10	3. 各部の体表解剖 5) 下肢の主な筋肉・腱・血管	下肢の主要な筋、腱、血管について触知し、名称を記載できる	実技
	11	4. 各部の体表解剖と経穴 1) 各部の経絡・経穴の触知 (1) 下肢 a. 陽経	下肢陽経の要穴を取穴できる	実技
	12	4. 各部の体表解剖と経穴 1) 各部の経絡・経穴の触知 (1) 下肢 a. 陽経	下肢陽経の要穴を取穴できる	実技
	13	4. 各部の体表解剖と経穴 1) 各部の経絡・経穴の触知 (1) 下肢 b. 陰経	下肢陰経の要穴を取穴できる	実技
	14	4. 各部の体表解剖と経穴 1) 各部の経絡・経穴の触知 (1) 下肢 b. 陰経	下肢陰経の要穴を取穴できる	実技
	15	前期試験前の確認・復習	前期に学習した事ができる	実技
	16	前期試験：生体観察、要穴取穴	口頭試問（基礎知識） ランドマーク・下肢要穴の触知できる	試験
	17	試験後フィードバック、再試験	不足部を理解し、改善できる	実技
	18	前期復習 5. バイタルサイン（血圧・脈拍測定）	適切に脈拍・血圧測定ができる	実技
後期	19	3. 各部の体表解剖 6) 上肢の主な筋肉・腱・血管	上肢の主要な筋、腱、血管について触知し、名称を記載できる	実技
	20	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 a. 陽経	上肢陽経の要穴を取穴できる	実技
	21	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 a. 陽経	上肢陽経の要穴を取穴できる	実技
	22	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 b. 陰経	上肢陰経の要穴を取穴できる	実技
	23	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 b. 陰経	上肢陰経の要穴を取穴できる	実技
	24	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (2) 上肢 c. 復習	上肢のランドマークを触知できる 上肢の経脈を示し、要穴を取穴できる	実技
	25	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (3) 頸肩部 1	頸肩部の主要な経穴を取穴できる	実技
	26	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (3) 頸肩部 2	頸肩部の主要な経穴を取穴できる	実技
	27	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (4) 背腰部 1	背腰部の主要な経穴を取穴できる	実技
	28	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (4) 背腰部 2	背腰部の主要な経穴を取穴できる	実技
	29	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知 (5) 腰殿部	腰殿部の主要な経穴を取穴できる	実技

30	後期試験：生体観察、主要な経穴の取穴	口頭試問（基礎知識） ランドマーク・主要経穴の触知できる	試験
31	試験後フィードバック、再試験	不足部を理解し、改善できる	実技
32	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知（6）胸腹部1	胸腹部の主要な経穴を取穴できる	実技
33	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知（6）胸腹部2	胸腹部の主要な経穴を取穴できる	実技
34	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知（6）胸腹部3	胸腹部の主要な経穴を取穴できる	実技
35	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知（7）頭部・顔面部1	頭部・顔面部の主要な経穴を取穴できる	実技
36	4. 各部の体表解剖と経穴（脈拍・血圧測定） 1) 各部の経絡・経穴の触知（7）頭部・顔面部2	頭部・顔面部の主要な経穴を取穴できる	実技

2020年度 I 部 鍼灸科



【分野】 専門分野

【科目】 臨床実習 I

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員		
単位数	1 単位		実務経験	
開講学期	通年	授業形態・回数	講義・演習	23回

【授業情報】

授業概要	<p>鍼灸科附属施術所における臨床見学を通して、鍼灸治療の実際に触れ、はり師・きゅう師としての将来像をイメージすることで、何を学び何が必要とされるのかを理解する。</p> <p>また、学外の鍼灸施術所や医療・スポーツ・介護施設など将来関連すると考えられる臨床現場を見学することで、医療人として幅広い視野を育てるとともに、はり師・きゅう師としての役割や将来像を主体性をもって考える機会をもつ。</p>
授業の一般目標 (G10)	<p>臨床見学を通して、鍼灸の効果や患者対応などの臨床の実際を認識することで、医療人としての倫理観や臨床能力(知識・技術・態度)の必要性について理解する。</p> <p>そのために、鍼灸医学を学ぶ学生としての自覚を持つとともに、通常の座学および実技授業に対する能動的な学習意識の向上を図ることを目的とする。</p> <p>また、学外の鍼灸施術所や医療関連施設などを見学することで、多様性を理解し、幅広い視野をもって、はり師・きゅう師としての将来像をイメージする力を身につける。</p>
行動目標 (SBOs)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としてふさわしい身なり、衛生概念が身についている。 ・患者、研修生、指導者に対して挨拶・自己紹介ができる。 ・研修生・指導者の指示に従い適切な言動ができる。 ・臨床実習施設における鍼灸施術の流れを理解することができる。 ・課題レポートを適切に書くことができる。 ・2年、3年の臨床実習を見学し、学内での到達目標を理解することができる。 ・臨地見学実習にて、指導員や患者に対し挨拶・自己紹介ができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場の指導員の指示に従うことができる。 ・臨地見学実習にて、臨床現場で体感し理解を深めたことをレポートにまとめることができる。

【担当教員から】

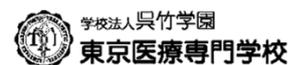
教科書	
参考書	

成績評価基準	成績評価の基準と算定方法（評価割合） 総合的に判断して60点以上（100点満点中）を合格点とする。 1. 出席率 2. 課題レポート（見学実習記録、デイリーノート、振り返りノートの評価） 3. 実習中の態度・取り組む姿勢など（実習指導者による評価）
成績評価方法	・学内：各々提出レポート（見学実習記録1・2・3・4）、出席率 ・学外：臨地見学実習レポート（デイリーノート、振り返りノート） 実習指導者による評価表
授業時間外必要な学修	
履修にあたっての留意点	
オフィスアワー	

【授業計画】 臨床実習Ⅰ 2020年度Ⅰ部 鍼灸科				
学期	回数	講義内容	到達目標(SBOs)	講義形態
	1	見学基礎実習1(臨床実習ガイダンス)	臨床実習について理解できる	講義
	2	学内臨床見学実習1(附属施術所) ・研修生による施術の見学	・研修生の施術見学により、鍼灸施術の流れを理解することができる ・3年次の実習内容を理解することができる	実習
	3	・監督教員による施術内容についての説明など (3年実習も一部見学し、概要を把握)		実習
	4	見学実習1-1(附属施術所) ・教員による施術の見学	・教員の施術見学や施術後の解説により、授業内容との関連について理解できる	実習
	5	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	6	見学基礎実習2(臨地実習ガイダンス)	外部臨床実習に必要な説明を行う	講義
	7	体験型見学実習(附属施術所) (患者の立場から、施術全体を体験・見学する)	・患者の立場から、鍼灸施術者として必要な事について、気付くことができる	実習
	8	見学実習1-2(附属施術所) ・教員による施術の見学	・教員の施術見学や施術後の解説により、授業内容との関連について理解できる	実習
	9	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	10	見学実習1-3(附属施術所) ・教員による施術の見学	・教員の施術見学や施術後の解説により、授業内容との関連について理解できる	実習
	11	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	12	学内臨床見学実習1(附属施術所) ・研修生による施術の見学	・研修生の施術見学により、鍼灸施術の流れを理解することができる ・2年次の実習内容を理解することができる	実習
	13	・監督教員による施術内容についての説明など (2年実習も一部見学し、概要を把握)		実習
	14	見学実習1-4(附属施術所) ・教員による施術の見学	・教員の施術見学や施術後の解説により、授業内容との関連について理解できる	実習
	15	・施術担当教員による施術内容についての説明		実習
	16	外部臨床実習1(施術所または医療施設等の見学)	・学外のあはき施術所の見学を通して、あはきの多様性や相違点などを理解することができる	実習
	17			実習
	18	外部臨床実習2(施術所または医療施設等の見学)	・学外のあはき施術所の見学を通して、あはきの多様性や相違点などを理解することができる	実習
	19			実習
	20	外部臨床実習3(施術所または医療施設等の見学)	・学外のあはき施術所の見学を通して、あはきの多様性や相違点などを理解できる	実習

21	外部臨床実習 4 (施術所または医療施設等の見学)	あはきの多様性や相違点などを理解することができる	実習
22	外部臨床実習 4 (施術所または医療施設等の見学)	・学外のあはき施術所の見学を通して、あはきの多様性や相違点などを理解することができる	実習
23			実習
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			

2021年度 I 部鍼灸科



学校法人 呉竹学園
東京医療専門学校

【分野】 専門分野 総合領域

【科目】 医学準備教育

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	三村 直巳	
単位数	2 単位		実務経験	
開講学期	1 学期・2 学期	授業形態・回数	講義	24回

【授業情報】

授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・鍼灸教育を受けるにあたり、必要な基礎知識として生物学、化学の基本について解説する。 ・鍼、灸の歴史について解説する。 ・医療従事者として必要なマナーについて考える。
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖学、生理学などを理解するための基礎となる生物学事項を理解する。 ・はきの歴史を日本と中国、韓国、アメリカ、ヨーロッパと国別、年代別に理解するとともに各国の関連性を理解する。

【担当教員から】

教科書	解剖学・生理学・はりきゅう理論 東洋療法学校協会編
-----	---------------------------

参考書	ぜんぶわかる人体解剖図 他 配布プリント等
成績評価基準	授業の理解度 基本的知識の習得 知識の応用力 以上を学期末試験にて評価を行う。
成績評価方法	学業成績の評価は、試験の成績、実習の成果及び履修状況等を総合的に勘案して行う。但し、授業時間数における出席時間数の割合が別に定める水準に達しない者は、当該科目について評価を受けることができない。 2 成績評価の基準は次のとおりとし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。 (1) A：100～90点 (2) B：89～70点 (3) C：69～60点 (4) D：60点未満 成績評価の基準と算定方法
授業時間外必要な学修	教科書、参考書を基に復習を行うこと。
履修にあたっての留意点	生理学、解剖学の教科書に載っているものは必ず復習をすること。

【授業計画】 医学準備教育 2021年度 I部鍼灸科

学期	回数	講義内容	行動目標 (SBOs)	講義形態
1期	1	スタディースキル、人体の基本 (組織)	講義を聞いてノートにまとめられる。組織の4つを挙げることができる。上皮組織について説明できる。	講義
	2	人体の基本 (組織)	結合組織 (線維性結合組織、軟骨) について説明できる。	講義
	3	人体の基本 (組織)	結合組織 (血液とリンパ) について説明できる。	講義
	4	情報リテラシー	SNSなどの利用上の注意、リテラシーを身につけ、注意すべき点を挙げることができる。	講義
	5	人体の基本 (ホメオスタシス)	ホメオスタシスについて説明できる。	講義
	6	人体の基本 (ホメオスタシス)	イオン、物質の移動、浸透圧について説明できる。	講義
	7	人体の基本 (ホメオスタシス)	pHについて説明できる。	講義
	8	人体の基本 (バイオリズム)	生体のバイオリズムについて説明できる。	講義
	9	人体の基本 (神経系の概要)	神経系の全体像を把握できる。	講義
	10	人体の基本 (神経系の概要)	神経系について、反射弓を書ける。自律神経の作用を表にできる。	講義
	11	試験	1期試験	試験
	12	試験解説	試験結果をフィードバックすることで理解を深める。	講義
	13	人体の基本 (生体防御機構)	非特異的防御機構と特異的防御機構について概説できる。	講義
	14	医学史	西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史について説明できる。	講義
	15	医学史	西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史について説明できる。	講義
	16	医学史	西洋医学、東洋医学、鍼灸の歴史について説明できる。	講義
	17	人体の基本 (栄養と代謝)	5大栄養素を挙げることができる。同化と異化、エネルギー代謝について説明できる。	講義

2期	18	人体の基本（栄養と代謝）	糖質の代謝、ATPの生成について説明できる。	講義
	19	人体の基本（栄養と代謝）	脂質、タンパク質の代謝について説明できる。	講義
	20	人体の基本（栄養と代謝）	ビタミン、ミネラル、水の代謝について説明できる。	講義
	21	人体の基本（栄養と代謝）	血糖調節について説明できる。	講義
	22	鍼灸施術の定義・特徴	鍼灸施術の意義・特徴について説明できる。	講義
	23	試験	2期試験	試験
	24	試験解説	試験結果をフィードバックすることで理解を深める。	講義
3期	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			
	31			
	32			
	33			
	34			
	35			
	36			